

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100277		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハート六条 1番館		
所在地	岐阜県岐阜市六条江東3丁目1番26号		
自己評価作成日	平成24年11月22日	評価結果市町村受理日	平成25年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2190100277-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成25年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年6月より岐阜市茜部大野にて運営してきましたグループホームふれ逢いと、平成17年6月より岐阜市鷺山にて運営してきましたグループホームほほえみが合併し、平成22年6月11日岐阜市六条江東に新築移転をし、「グループホームハート六条」という名称に変更致しました。利用者様も全員が新しいホームに来て頂けましたが、当初心配していた不穏等は全く無く、新しい環境にも直ぐに溶け込んでもらう事ができました。理念である「3つの感謝」・人に感謝、日々に感謝、地域に感謝を職員が共有し、介護の仕事をさせて頂ける喜びを感じています。職員と利用者様の絆も非常に深く、温かいホームであると思います。今まで築き上げてきた温かい心の介護を続けていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年開設の岐阜市茜部大野の「グループホームふれ逢い」と平成17年開設の岐阜市鷺山の「グループホームほほえみ」を平成22年6月に合併し、岐阜市六条江東で新たに「ハート六条」と新名称に変更して経営している。住居の移転等にもなう環境の変化による不穏も心配されたが、新しい環境にもすぐ慣れ、穏やかに生活ができています。事業所の理念である「人に感謝」「日々に感謝」「地域に感謝」を職員全員が理解して利用者に喜んでいただける介護を目指し実践している。地域との繋がりを大切にし、行事に参加を促すべく働きかけを続けている。戸外には畑があり、職員と共に野菜づくりを行い、今年度は地域住民と共に第2回「収穫祭」を行い、焼き芋を食べたり、近隣に配ったり等して交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に感謝、日々に感謝、地域に感謝」を理念に掲げ、管理者や職員は介護の仕事をさせて頂いている喜び、感謝をとて感じている。	3つの感謝「日々に感謝、人に感謝、地域に感謝」を基本理念とし、職員1人ひとりがこの理念を思いに留め、「自分の親だったら…」との思いを持ち、「させていただく」という気持ちで介護をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩の際に近所の方と挨拶を交わしたり、近くの喫茶店等は顔なじみの関係になっている。又、近所の方を招いての会もあり、参加して頂いている。又、毎月の生き生きサロンへの参加を行っている。又、町内の清掃活動や行事等参加させて頂いている。	近所の神社の宮掃除に参加し、近所の人と交流を図っている。また毎月社協支部主催の「いきいきサロン」に参加し、校区の人と顔馴染みになり、再会を楽しみにしている。近隣のデイサービスとも交流を図り、行事などに参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	初の試み回覧板を回し地域の皆さんを募って収穫祭を行った。利用者の皆さんと苑で育てたさつまいもを利用者さんと共に収穫し、焼き芋にして振舞った。近所にある他施設の方の利用や家族の方の参加もあり、苑の様子を知って頂く機会を設けられた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね二ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。自治会役員、民生委員等の代表者や地域包括支援センター、市担当者と情報や意見交換を行っている。	市職員、民生委員、自治会、利用者、ボランティア、家族の出席による運営推進会議を定期的に開催し、ホームの現状報告や問題点について話し合いサービスの質の向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村ともに積極的に報告、相談をしている。	運営推進会議に市、地域包括支援センターの担当者に出席してもらい、サービスの実際について報告をしたり、生活福祉課へは年に1～2回報告したりする等して協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は理解しているが、身体生命の危険が伴う場合は市町村に報告し、家族に文書にて同意をもらうように説明している。	身体拘束をしないケアについてのマニュアルが整備され、外部研修、職場内研修を通して全職員が拘束のない支援の実践に努めている。施設の構造上、やむなく玄関の施錠をしている。また身体拘束の必要性が生じた場合は、市や家族へ知らせて了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待は一切無い。更に今後も今までのように防止に努めていきたい。職員会議で言葉遣い、対応の仕方等を話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用される利用者様はいませんが、必要であれば、今後は活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭にて十分説明をし、トラブルの無いように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にポスターや苦情受付ポストを設置し、利用者や家族が意見、不満、苦情を言える環境は整っており、直接運営に反映させる様にしている	利用者は運営推進会議においての意見を表明する機会があり、家族は訪問時、気軽に職員に意見要望を伝えることができる関係づくりがされている。要望については外出希望が多いので、意見に沿うべく検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開き、職員が何でも意見が言える雰囲気である。また随時、職員同士で話し合う機会を設け反映してくれている。	月1回開催の職員会議はパートを含む全職員が出席し、意見を言いやすい雰囲気がある。ホームの運営やケアの実践の中で気づいた点を話し合い、今後の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員等にも、賞与や交付金があり、また労働条件が良く高齢の職員も活躍できる職場である。職員の定着率も非常に良い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員がそれぞれのレベルに合った研修を受けられるようにし、研修を終えた職員はレポートを書き職員会議等全員が集まる機会に発表の場を設けている。又、事務所には資料を含めレポートを閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は会社の上司、ホーム長、ユニット長が参加して、職員に報告している。今後は職員も積極的に参加するようにしていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が多い入居初期には特に力を入れ、職員全員で利用者様の言葉に耳を傾け、聞く体制をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居初期は特に不安だと思うので、家族等が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け信頼関係を築いている。希望があれば体験入所や1週間の仮入所も実施している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの長所なども説明させて頂き、本人、家族の事を第一に考えるように努めている。希望があれば他のサービス事業所と連絡をとったり、紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様も家族のように共に支え合い、尊重し生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも何でも言い合える関係を作っている。些細の事でも、電話や面会時に話し合い利用者様が快適に暮らせるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	移転した後も、鷺山のボランティアの方々や民謡ボランティアの方々が一月や二月に1度は訪問に来て下さり、利用者様も大変楽しみにされている。	移転前のボランティアの方々が訪問に来てくださっている。また社協支部主催の「いきいきサロン」に出席することで、地域の方々との顔馴染みが増え、毎回出席されることを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日常生活での関わりを通じて職員は利用者様同士の様子をさりげなく観察し、何かあればいつでも間に入れる距離にあり、よい関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も連絡を取ったり、相談に乗り、本人や家族の事をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を設けており、個別での関わりを多く持ち、出来る限り本人の希望、意向に添った生活が出来るよう心がけている。	担当職員ができる限り本人の希望や意向を汲み上げ、介護計画に反映させている。月1回介護計画の課題を話し合い、見直しを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全員が個人ファイル等の閲覧等により、利用者様の生活歴を把握して、その人らしく生活できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験を生かせる場面を提供し、その人らしい暮らしが出来る様支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等とは電話や面会時に話をし、職員間ではその都度、また月一回の会議で介護計画を話し合い作成している。	担当職員を決め、利用者の意向把握を行い、施設ケアマネを中心にアセスメントを行い、チームで介護計画を作成している。毎月担当者がモニタリングを行い、目標達成状況について職員間で話し合い、見直しを行っている。	二つのホームが合併しているのでまだ書式が統一されていない。今後早急に職員間で情報を共有できるように統一化を図るよう検討されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを作り、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時に家族に代わって、通院や買い物や外食等の外出のサービスを希望時に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、警察、消防等とは連絡を取り、安全で豊かな暮らしができるように支援している。特に消防署とは昔から密な関係であり緊急時の対応をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在も本人の希望される病院から往診がある。24時間訪問看護とも連携しており、医療面でも大変安心できる	受診は本人及び家族等の希望を大切にし、今までの主治医を継続したい方は継続してもらっている。月2回嘱託医の往診があり、訪問看護とも連携しており24時間対応可能となっている為、利用者は安心して生活ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師に気楽に相談できる関係を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者には週二、三回は訪問し状態を把握している。家族の支援が困難な利用者様には家族に代わって洗濯等の必要な援助も行っている。普段より病院の相談員とも連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に家族と医療チーム、職員が話し合い、思いを共有し昨年もターミナルケアを経験している。大変勉強になり、今後も希望があれば、方針を共有して支援に取り組んでいきたい	ターミナル期の対応について説明した上で本人や家族の意思を尊重し、ターミナルケアを実施している。連携できる医師や看護師のケアや指導により、ターミナルケアを行うことができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が年一回以上の心肺蘇生法の講習を行い、随時、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。日頃から消防署に出向いたりして連携をとっている。	年2回消防署の指導による避難訓練を実施し、全職員が有事の場合、速やかに対応できるよう訓練を行っている。	地域住民や隣接しているデイサービスと共に避難訓練ができる体制づくりに向けた取り組みに期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、一人ひとりの人格を尊重するように心がけ、人生の先輩として言葉遣い等も気をつけている	排泄時や入浴など、プライバシーを確保し、言葉がけに配慮する等利用者の尊厳を守るべく対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様には自由に自身の思いを言ってもらっている 職員が決めるのではなく、利用者様の希望を尊重している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にし、居室やフロアと各々自由に過ごして頂いてる 希望の利用者様は職員の付き添いのもと、近くの喫茶店に行くこともある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の美容室、理容室に訪問してもらったり、出かけて行って好みにカットしている 女性であれば、マニキュアやメイク道具も常備しており、お洒落を楽しんでもらっている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立の利用者が多く、毎日、食事の準備や片付け等を手伝って頂ける 利用者様のADLの低下も目立って見られず、グループホームの素晴らしさを感じている	朝が苦手な方にもゆっくり食事をしていただけるように食事時間に幅を設けたり、通院で遅くなる利用者には温め直すなどの対応をしている。食事の下ごしらえ、味付け、配膳下膳等できるだけ利用者に手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員として栄養士がいない為、きちんとはできていないが、食べる量や栄養バランス、水分量を記録して職員全員が把握できるようにしている。また状況に応じて看護師等に相談している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を全職員が理解しており、洗浄時間や洗浄法等一人ひとりに合わせた支援を行っている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察して声掛け、介助、見守りを行っています。さりげなく介助し、本人の負担にならないよう心がけています。	排泄の自立支援に向けて利用者一人ひとりの排泄パターンに応じた個別支援をしている。紙パンツからリハビリパンツになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人が水分補給を多く摂るようにチェック表を用いながら心掛けている 食物繊維の多い食品を使用して調理したり、ラジオ体操、レクリエーション、散歩等の運動を心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望の入浴順番、湯かげん、入浴する時間に配慮しています。	週2回入浴できるように支援し、その人に合った入浴方法(湯加減・入浴の順番・季節の入浴剤)で楽しく入浴していただいている。入浴を拒む利用者には声かけ方法を考え、気持ちよく入浴して頂けるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩後や入浴後に自由に休憩して頂いている 就寝時間も特に決めず自由に床について頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないように個人の内服薬を書き出し、貼り出すことで職員全員が理解し、利用者様の症状の変化を観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験が活かせる場所を提供し、その人らしい暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の声を聞き、出来るだけ希望に沿うようにしている その方が望めば、少々時間が掛かっても馴染の場所に行ける支援をプランに組んで実施している	利用者は近隣への散歩に出かけたり、喫茶店に出かけたりしている。利用者の希望に応じて外出支援もしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知の軽い方であれば、おこづかい帳により所持金をチェックするのみで自身でお金を使用できるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話は自らかけて頂いてる 手紙に関しては、字が書けない方は、職員が支援して手紙等を送っている 年賀状も毎年ご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅街なので不快な音や光も無く穏やかに過ごされている レクリエーションでは、季節に合った工作を行い、展示している	共有空間に自然光が入り、明るく暖かい。多くの利用者は個室に閉じこもることがなく、共有空間で楽しく談笑している。廊下には行事や外出時の写真が掲示されており、外出時の会話を楽しんでもらえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごせる居間を提供し、居室では自由に生活して頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には仏壇や遺影も置かれている利用者様も見える 入所時には本人が希望される馴染みの持ち物を飾って頂けよう声を掛けている	本人の好みで部屋の中を飾ったり、家具を置かれている。仏壇を持って来てみえる人もいる。本人の使い慣れた家具や思いのある調度品等が居室にあり、落ち着いた生活ができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がすべて行ってしまうのではなく、そばに付き添って声掛けを行い、本人の力を引き出すようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100277		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハート六条 2番館		
所在地	岐阜県岐阜市六条江東3丁目1番26号		
自己評価作成日	平成24年11月22日	評価結果市町村受理日	平成25年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2190100277-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成25年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に感謝、日々に感謝、地域に感謝」を理念に掲げ、管理者や職員は介護の仕事をさせて頂いている喜び、感謝をとて感じている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩の際に近所の方と挨拶を交わしたり、近くの喫茶店等は顔なじみの関係になっている。又、近所の方を招いての会もあり、参加して頂いている。又、毎月の生き生きサロンへの参加を行っている。又、町内の清掃活動や行事等参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	初の試み回覧板を回し地域の皆さんを募って収穫祭を行った。利用者の皆さんと苑で育てたさつまいもを利用者さんと共に収穫し、焼き芋にして振舞った。近所にある他施設の方の利用や家族の方の参加もあり、苑の様子を知って頂く機会を設けられた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね二ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。自治会役員、民生委員等の代表者や地域包括支援センター、市担当者と情報や意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村ともに積極的に報告、相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は理解しているが、身体生命の危険が伴う場合は市町村に報告し、家族に文書にて同意をもらうように説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待は一切無い。更に今後も今までのように防止に努めていきたい。職員会議で言葉遣い、対応の仕方等を話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用される利用者様はいませんが、必要であれば、今後は活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭にて十分説明をし、トラブルの無いように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にポスターや苦情受付ポストを設置し、利用者や家族が意見、不満、苦情を言える環境は整っており、直接運営に反映させる様にしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開き、職員が何でも意見が言える雰囲気である。また随時、職員同士で話し合う機会を設け反映してくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員等にも、賞与や交付金があり、また労働条件が良く高齢の職員も活躍できる職場である。職員の定着率も非常に良い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員がそれぞれのレベルに合った研修を受けられるようにし、研修を終えた職員はレポートを書き職員会議等全員が集まる機会に発表の場を設けている。又、事務所には資料を含めレポートを閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は会社の上司、ホーム長、ユニット長が参加して、職員に報告している。今後は職員も積極的に参加するようにしていきたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が多い入居初期には特に力を入れ、職員全員で利用者様の言葉に耳を傾け、聞く体制をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居初期は特に不安だと思うので、家族等が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け信頼関係を築いている。希望があれば体験入所や1週間の仮入所も実施している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの長所なども説明させて頂き、本人、家族の事を第一に考えるように努めている。希望があれば他のサービス事業所と連絡をとったり、紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様も家族のように共に支え合い、尊重し生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも何でも言い合える関係を作っている。些細の事でも、電話や面会時に話し合い利用者様が快適に暮らせるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	移転した後も、鷺山のボランティアの方々や民謡ボランティアの方々が一月や二月に1度は訪問に来て下さり、利用者様も大変楽しみにされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日常生活での関わりを通じて職員は利用者様同士の様子をさりげなく観察し、何かあればいつでも間に入れる距離にあり、よい関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も連絡を取ったり、相談に乗り、本人や家族の事をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を設けており、個別での関わりを多く持ち、出来る限り本人の希望、意向に添った生活が出来るよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全員が個人ファイル等の閲覧等により、利用者様の生活歴を把握して、その人らしく生活できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験を生かせる場面を提供し、その人らしい暮らしが出来る様支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等とは電話や面会時に話をして、職員間ではその都度、また月一回の会議で介護計画を話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを作り、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時に家族に代わって、通院や買い物や外食等の外出のサービスを希望時に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、警察、消防等とは連絡を取り、安全で豊かな暮らしができるように支援している。特に消防署とは昔から密な関係であり緊急時の対応をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在も本人の希望される病院から往診がある 24時間訪問看護とも連携しており、医療面でも大変安心できる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師に気楽に相談できる関係を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者には週二、三回は訪問し状態を把握している。家族の支援が困難な利用者様には家族に代わって洗濯等の必要な援助も行っている 普段より病院の相談員とも連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に家族と医療チーム、職員が話し合い、思いを共有し昨年もターミナルケアを経験している 大変勉強になり、今後も希望があれば、方針を共有して支援に取り組んでいきたい		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が年一回以上の心肺蘇生法の講習を行い、随時、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。日頃から消防署に出向いたりして連携をとっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、一人ひとりの人格を尊重するように心がけ、人生の先輩として言葉遣い等も気をつけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様には自由に自身の思いを言ってもらっている 職員が決めるのではなく、利用者様の希望を尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にし、居室やフロアと各々自由に過ごして頂いてる 希望の利用者様は職員の付き添いのもと、近くの喫茶店に行くこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の美容室、理容室に訪問してもらったり、出かけて行って好みにカットしている 女性であれば、マニキュアやメイク道具も常備しており、お洒落を楽しんでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立の利用者が多く、毎日、食事の準備や片付け等を手伝って頂ける 利用者様のA DLの低下も目立って見られず、グループホームの素晴らしさを感じている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員として栄養士がいらない為、きちんとはできていないが、食べる量や栄養バランス、水分量を記録して職員全員が把握できるようにしている。また状況に応じて看護師等に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を全職員が理解しており、洗浄時間や洗浄法等一人ひとりに合わせた支援を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察して声掛け、介助、見守りを行っています。さりげなく介助し、本人の負担にならないよう心がけています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人が水分補給を多く摂るようにチェック表を用いながら心掛けている 食物繊維の多い食品を使用して調理したり、ラジオ体操、レクリエーション、散歩等の運動を心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望の入浴順番、湯かげん、入浴する時間に配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩後や入浴後に自由に休憩して頂いている 就寝時間も特に決めず自由に床について頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないように個人の内服薬を書き出し、貼り出すことで職員全員が理解し、利用者様の症状の変化を観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験が活かせる場所を提供し、その人らしい暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の声を聞き、出来るだけ希望に沿うようにしている その方が望めば、少々時間が掛かっても馴染の場所に行ける支援をプランに組んで実施している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知の軽い方であれば、おこづかい帳により所持金をチェックするのみで自身でお金を使用できるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話は自らかけて頂いてる 手紙に関しては、字が書けない方は、職員が支援して手紙等を送っている 年賀状も毎年ご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅街なので不快な音や光も無く穏やかに過ごされている レクリエーションでは、季節に合った工作を行い、展示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごせる居間を提供し、居室では自由に生活して頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には仏壇や遺影も置かれている利用者様も見える 入所時には本人が希望される馴染みの持ち物を飾って頂けよう声を掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がすべて行ってしまうのではなく、そばに付き添って声掛けを行い、本人の力を引き出すようにしています。		